

「ネフローゼ症候群の後ろ向きコホート研究」の概要

1. 意義と目的

ネフローゼ症候群は、尿たんぱくとして、大量のアルブミンが尿中に漏れるために血液中のアルブミン濃度がさがり全身の浮腫が起こる病気です。ネフローゼ症候群に対していろいろな治療が行われてきましたが、いまだ全国的に確立された治療法がないのが現実です。2011年に日本人腎臓学会よりネフローゼ症候群診療指針が発表されました。その統一された基準にしたがって皆さんの治療成績を検討し、今後の治療指針の改訂に役立てるのが本研究の目的です。

2. 対象患者

名古屋大学医学部附属病院、関連病院ならびに共同研究機関（下記表1）において、ネフローゼ症候群と診断された全症例を対象とします。（腎生検にて証明されたネフローゼ症候群を起しやすいとされる疾患を含みます）

ネフローゼ症候群診断基準

1. 蛋白尿：3.5 g/日以上が持続する。（随時尿において尿蛋白/尿クレアチニン比が3.5 g/gCr 以上の場合もこれに準ずる、また、尿蛋白が正確に測定できない場合や、3.5 g/日未満でも臨床的にネフローゼ症候群であると判断する場合は登録する）。

2. 低アルブミン血症：血清アルブミン値 3.0 g/dL 以下。血清総蛋白量 6.0 g/dL 以下も参考になる。

3. 研究期間と予定症例数

研究期間は倫理委員会承認後5年間（2018年1月16日）です。

（ただし、論文作成やその為の統計解析はその後も続くことがあります）

観察研究のため対象患者さん全員を解析します。そのため予定症例数の設定はありません。

4. 調査方法

各施設において、診療記録より個人情報をのぞいた本研究に必要な項目を抽出し入力します。個人情報は一切収集いたしません。

5. 個人情報に関する規定

本研究は対象者のデータを過去にさかのぼって調査する後ろ向き研究です。個人情報は匿名化され対象者のプライバシーは保護されます。また倫理委員会における審査を経てから

実施しています。

この研究への非協力のご表明、ご質問がございましたら下記問い合わせ先までご連絡ください。

研究責任者：名古屋大学医学部腎臓内科 教授 丸山 彰一

○問い合わせ先

名古屋大学医学部腎臓内科

TEL：052-744-2192 FAX：052-744-2209

○苦情の受付先

名古屋大学医学部経営企画課：(052-744-2479)



共同研究機関

名古屋大学腎臓内科 関連病院	名古屋共立病院	春日 弘毅
	国立病院機構名古屋医療センター	八尾村多佳朗
	中部ろうさい病院	藤田 芳郎
	公立陶生病院	稲葉慎一郎
	津島市民病院	山本順一郎
	大垣市民病院	傍島 祐司
	県立多治見病院	杉山 豊
	東海中央病院	筑紫さおり
	海南病院	鈴木 聡
	増子記念病院	森弘 卓延
	春日井市民病院	成瀬 友彦
	市立四日市病院	山口 真
	安城厚生病院	玉井 宏史
	江南厚生病院	平松 武幸
	名古屋記念病院	榊原 雅子
	名古屋第一赤十字病院	石川 英昭
	中東遠総合医療センター	赤堀 利之
	名古屋セントラル病院	森田 良樹
	豊橋市民病院	山川 大志
豊田厚生病院	倉田 久嗣	
一宮市民病院	白崎 有正	

	半田市立半田病院	水谷 真
	小牧市民病院	大石 秀人
関連病院以外の 共同研究施設	増子記念病院腎臓内科	両角 國男
	大阪大学大学院医学系研究科老年・腎臓内科学腎臓研究室	山本 陵平
	筑波大学大学院人間総合科学研究科 / 筑波大学医学医療系生命医科学域 腎・血管病理学講座	長田 道夫